

知ってもらいたいことや気持ち

小五

わたしは、生まれつきなのか分からないけれど、「きつ音」という言葉のしよう害があります。ふだん、スララと話せる人でも、きつ音が出ることはありません。きつ音はだれにでも出るという可能性があります。みなさんは、きつ音を知っていますか。

きつ音とは、話をするときに、「あ、あ、あ、あのね」とか、「あーあーあしたね」とか、自分がわざとしているわけではないのに言葉が出てしまうことです。例えば、人前で話すとき、すぐくきん張して、きつ音が出てしまうことがあります。また、授業中に答え

るときなど、と中で言葉が止まって、話が止まってしまふことでもあります。どうしても途中で止まってしまふかというとき、きん張してあせっているのを落ち着かせて、ふんばろうとしているからです。そういうときは、少し待っていてほしいです。

わたしは、言葉が止まって出てこないとき、担任の先生にたよってばかりでした。

「先生にたよらずスラスラ言えたら……。」と思って、この前の日直のときにがんばってやってみようと思いましたが。でも、帰りの会で司会をしているとき、きつ音が出てしまい、それを笑ってごまかしてしまいました。はずかしいと思ったのと、うまく言葉が出せなかつたので顔をかくしてごまかし

たのです。その後、クラスメイト二人に聞かれました。

「なんで笑ったの。」

わたしは、

「うーん。」

と言い、その理由を説明できませんでした。説明するとき、きつ音が出てしまいそうだったからです。「どうして、上手に言葉が出せないのだろう。」わたしはなんだか申しわけない気持ちになりました。「司会がちゃんとできなくてごめんなさい。」と謝りたかったけれど「きつ音さえなければうまく謝れたのに……。」と思いました。

だから、みなさんをお願いがありません。きつ音が出て変に思わないでください。わたしの言いたいことや気持ちを分かってください。それから、わ

たしみたいなしょう害のある人は世の中にたくさんいます。そして、みんな努力しています。でも、きつ音が出ることで周りの人と上手に会話ができず、うまく伝わらないときもあります。きつ音は、だれにでも出る可能性があるし、しょう状なのです。特別なことではありません。

わたしは、みなさんにきつ音のことをもっと知ってもらいたいと思います。そして、わたしもきつ音が出て、堂々と話せるようになりたいです。

わたしは、し、しょう害のある人の気持ちが分かります。だから、その人たちが支えられる人になりたいです。